

平成14年度活動報告

当プロジェクトも立ち上げから2年目である。今年は日中国交回復30周年にあたり、昨今の中国の著しい経済発展やこれに伴う日本から中国への直接投資の盛り上がり、さらに日本経済の産業空洞化への影響等によって、中国経済の動向が一般に大きな関心呼んだ。このため、当プロジェクトとしては当初計画にはなかった第1回『公開シンポジウム』を1年前倒して実施することになった。この準備にかなりの労力が費やされたものの、当初計画で比較的重視していた中国内陸部の視察旅行(東北地方、西部地方)は、予定どおり精力的に実施された。今年度の当プロジェクト研究計画の総額は4204千円であり、これに従った。

年度末までの主な事業概要は以下の通りである。

〔1〕公開シンポジウム『中国経済の将来と日本企業の役割』の実施

上海社会科学院(部門経済研究所長)のLi無畏氏(ほか1名)、日本の実業界からさらに3名の講師をそれぞれ招聘、さらに京都市・京都商工会議所・京都経営者協会の後援を受けてこのシンポジウムは開催された。実質上9月から準備に入ったこのシンポの概要は下記の通りである。

- (1) 日時 平成14年11月2日(土)15:00~18:00
- (2) 場所 キャンパスプラザ京都 4F 第2会議室
- (3) プログラム (第部)基調講演「21世紀初頭中国経済発展の趨勢」(第部)パネルディスカッション「中国市場の拡大 日本企業の経験と期待」
- (4) 参加人数 参加総数約130名(企業関係者 約80名、一般 約50名)、初回にしては予想を上回る盛況であったとおもわれる。

〔2〕中国現地視察

今年度の中国現地視察の目標は経済発展の著しい東部湾岸地域と比較する形で、内陸部(東北地方、西部地方)に向けられていた。これを5人のメンバーで予定通り2回に分けて実施した。

- (1) 東北地方の現地視察
 - 1) 視察地 黒龍江省のハルビン市とチチハル市 遼寧省の瀋陽市

- 2) 視察期間 平成 14 年 8 月 21 日～8 月 30 日
- 3) 主な訪問先 黒龍江大学、黒龍江省社会科学院、遼寧省社会科学院のほか現地の国営企業 2 社、ハルビン市の近郊農家など

(2) 西部地方の現地視察

- 1) 視察地 重慶市、四川省の成都市（上海を經由）
- 2) 視察期間 平成 15 年 3 月 13 日～3 月 19 日
- 3) 主な訪問先 四川大学、四川省社会科学院、重慶市社会科学院、そのほか現地の国営企業 2 社、日系企業 1 社、現地の近郊農家など

〔3〕研究図書・資料の購入

外国文献・資料（英語 4 冊、中国語 18 冊） 22 冊 日本語文献・資料 12 冊

〔4〕研究成果などの公表

先に述べた第 1 回「公開シンポジウム」の討議の全容についてはディスカッションペーパーとして整理し、シンポ参加者に対して広く送付された。また、メンバーそれぞれの専門領域からの研究は年度末までにディスカッションペーパーとして順次公表。

〔5〕その他

当プロジェクトは当初 6 名のメンバーで発足したが、この内中国の国際金融面を研究予定であった葉原壽人助教授は、都合によりメンバーから外れることになった。この分野の調査・研究はプロジェクトに残った他のメンバーが分担して引き継いで行きたい。

平成 15 年度の活動は 3 年目に入り、メンバー全員が共有する問題意識の形成から、各メンバーの専門領域の研究に重点を移すことになる。したがって、海外視察等の活動もそれぞれの専門領域にとって適切な時期、場所、調査方法を選択する。そして、メンバーはその研究成果を、ディスカッションペーパー、ホームページその他の場で積極的に公表することに努めて行きたい。